

令和3年度 学校評価 【自己評価】

全教職員	25名
回答人数	25名
回答率	100%

※ A：よい B：概ねよい C：やや不十分である・あまりよくない D：改善を要する  
 ※ A+Bが80%以上をA、A+Bが70%以上をB、A+Bが45%以上をC、A+Bが45%未満をDとする。

領域	対象	A	B	C	D	計	A	B	C	D	満足度	R03	R02			
教育活動に係る評価	学習指導	1 生徒が自学自習を自らできるよう、授業等を工夫している	2	16	4	0	22	9.1%	72.7%	18.2%	0.0%	81.8%	A	A		
		2 シラバスの内容充実を図り、それに合わせた授業実践を行なっている	2	17	3	0	22	9.1%	77.3%	13.6%	0.0%	86.4%	A	B		
		3 シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している	4	14	4	0	22	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	81.8%	A	B		
		4 定期試験前後の成績不良・不振者への指導を充実させ、追試合格者数の向上を図っている	4	14	4	0	22	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	81.8%	A	A		
		5 定期試験終了後の授業満足調査によって授業改善を進めている	6	14	2	0	22	27.3%	63.6%	9.1%	0.0%	90.9%	A	A		
		6 教科内連携を充実して指導の均等化を図り、評価判定等の充実を目指している	5	14	3	0	22	22.7%	63.6%	13.6%	0.0%	86.4%	A	A		
		7 生徒の学習面での努力や成果を適切に評価している	9	13	0	0	22	40.9%	59.1%	0.0%	0.0%	100.0%	A	—		
		8 授業や講習等における準備を十分に行なっている	6	9	7	0	22	27.3%	40.9%	31.8%	0.0%	68.2%	C	B		
		9 ノーチャイム制を意識し、授業の開始・終了時間をしっかり守って授業を行なっている	5	13	5	0	23	21.7%	56.5%	21.7%	0.0%	78.3%	B	A		
		10 授業では、生徒の授業態度についてその都度、適切に指導している	7	15	0	0	22	31.8%	68.2%	0.0%	0.0%	100.0%	A	A		
		11 授業では教進部の授業目標を理解し、実践している	6	12	4	0	22	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%	81.8%	A	B		
		12 生徒にとって適切なカリキュラムを組んでいる	3	15	4	0	22	13.6%	68.2%	18.2%	0.0%	81.8%	A	A		
		13 スコラ手帳の活用を図っている	5	6	9	3	23	21.7%	26.1%	39.1%	13.0%	47.8%	C	C		
		14 iPadや電子黒板、BLEND、LearningBox等のICT機器を活用している	8	10	5	0	23	34.8%	43.5%	21.7%	0.0%	78.3%	B	C		
	進路指導	15 教科、学年、部活動、講習等を通して、進路の自己実現へ向けた意識付けを行なっている	4	16	2	0	22	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%	90.9%	A	A		
		16 実力テストや模試において十分な事前・事後指導を行なっている	3	9	10	0	22	13.6%	40.9%	45.5%	0.0%	54.5%	C	C		
		17 生徒・保護者へ進路に関する情報を適切に提供し、また教員間での情報共有に努めている	1	17	6	0	24	4.2%	70.8%	25.0%	0.0%	75.0%	B	B		
		18 生徒からの面接指導を含む進路に関する相談や作文指導、小論文指導等を計画的に実施している	7	12	3	0	22	31.8%	54.5%	13.6%	0.0%	86.4%	A	B		
	生徒指導	19 生徒が高校生らしい規律ある生活を送られるように指導している	6	18	0	0	24	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	A	A		
		20 頭髪・服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣い、礼儀、マナー等については、その場で指導している	6	18	0	0	24	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	A	A		
		21 担任や教科担任として、担当生徒一人一人を把握し、学年や生徒指導部との連携を密にして指導を進めている	8	15	0	0	23	34.8%	65.2%	0.0%	0.0%	100.0%	A	A		
		22 本校の生活規律についての指導を生徒や保護者へ理解させている	5	17	2	0	24	20.8%	70.8%	8.3%	0.0%	91.7%	A	A		
	特別活動	23 学校行事への生徒の意識向上を図るとともに、部活動や学校行事等へ積極的に参加している	9	11	4	0	24	37.5%	45.8%	16.7%	0.0%	83.3%	A	A		
		24 生徒会活動や委員会活動、部活動等で、生徒自らが計画を立案し、課題への迅速な対応を図れるように指導している	4	17	3	0	24	16.7%	70.8%	12.5%	0.0%	87.5%	A	A		
	教育戦略	25 挨拶・礼儀指導を基本とする学力向上教育や特色を様々な機会を通じて中学校等へアピールしている	6	12	5	1	24	25.0%	50.0%	20.8%	4.2%	75.0%	B	A		
		26 より魅力ある授業づくりを意識して授業改善に取り組んでいる	5	15	2	0	22	22.7%	68.2%	9.1%	0.0%	90.9%	A	A		
		27 学校広報の一環としてのホームページ、学級だよりなど、さまざまな発信をしている	2	11	7	3	23	8.7%	47.8%	30.4%	13.0%	56.5%	C	A		
	学校運営	信頼される学校づくり	28 生徒が本校に入学してよかったと思う学校づくりに努めている	5	17	2	0	24	20.8%	70.8%	8.3%	0.0%	91.7%	A	A	
			29 生徒の高校生活が充実するように一人一人に目を向け指導している	5	18	1	0	24	20.8%	75.0%	4.2%	0.0%	95.8%	A	A	
			30 担任として、担任生徒全員との個別面談を実施している(2回以上)	7	5	3	0	15	46.7%	33.3%	20.0%	0.0%	80.0%	A	A	
			31 懇談会や懇親会を含めて保護者との協力関係構築に努めている	2	8	5	2	17	11.8%	47.1%	29.4%	11.8%	58.8%	C	C	
			32 生徒・保護者に必要な情報を積極的かつ十分に提供している(学級・分掌・部活動等)	1	18	5	0	24	4.2%	75.0%	20.8%	0.0%	79.2%	B	A	
			33 今年度の学校目標や分掌、学年等での重点目標等を理解して実践している	2	20	2	0	24	8.3%	83.3%	8.3%	0.0%	91.7%	A	A	
		組織運営	34 iPad、電子黒板等、ICT機器の活用推進がなされている	9	8	5	0	22	40.9%	36.4%	22.7%	0.0%	77.3%	B	C	
			資質向上	35 各種研修への参加や校内研修等で研修を深める努力を行なっている	3	12	9	0	24	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	62.5%	C	B
				36 校内で研修成果の報告や活用に努めている	3	11	9	1	24	12.5%	45.8%	37.5%	4.2%	58.3%	C	C

自由記載

ホームページに制作中のページが数多く残っていたり、英語の記事が投稿され続ける問題が未だに解決しないのは良くないと思います。ホームページは広報のための重要なツールだと思うので、最低限これらの問題の解決が喫緊の課題だと思います。

年々年を取る事で生徒との距離を感じている。生徒と会話をしようとして、熱弁してしまうことがもしかしら多いかも知れない。熱く語ることで自分を今の生徒は望んでいないのか、『そこまで言わなくても分かっています』という感じを受けてしまいます。

勤務時間の問題だと思いますが、朝のSHRが8:50~8:55で1時間目が8:55~、7時間目の休憩が5分というのは無理があるように思います。ノーチャイムを行うのであれば以上の点は改善が必要だと思います。また、ノーチャイムを行うのであれば、教員が授業前にHRに入っている覚悟が必要、残念ながら今の状況ではチャイムを鳴らしたほうが良いように思います。時間割については、六分の六は当たり前のことなのでしょうか、講師の関係で午前中4時間連続というのは理解できますが・・・3時間連続は避けるなどの決まりは必要かと思っています。

## 令和3年度関係者評価

### 【1】学校全般(信頼される学校づくり)について

- 1 「入学してよかった」について、保護者は概ね満足している。2年生は、1年次の83ポイントから69ポイントとかなり下降している。他の項目はそれほど落ち込んでいないことから、「コースへの不満(89ポイントから77ポイントへ下降)」が考えられる。
- 2 「熱心に部活動や学校行事に取り組んでいる」について、教員の自己評価は高い。
- 3 「教育活動の内容が伝わっているか」について、2年生及び保護者のポイントが低い。コロナ禍の関係で、急遽オンライン授業(Zoom)への移行やオンライン授業期間の情報伝達に不満を抱えた可能性が高い。「教職員との懇談を含めた保護者との協力関係」も59ポイントと低く、コロナ禍の影響が関係していると考えられる。

### 【2】学習全般について

- 1 学習指導に係る教員の評価は低く、生徒・保護者・地域住民は評価が高い傾向にある。教員は「学習の評価を適切に行っている」との自負があるものの、評価方法の変更(観点別学習評価)に対する戸惑いが関係していると考えられる。
- 2 「教材や指導方法の工夫」に対しては、十分評価できる。教員としての矜持を保ち続ける姿勢が認められる。
- 3 生徒自身は「宿題や課題は適切である(87ポイント)」と高いが、保護者は「家庭学習をしている」とは見ていない(52ポイント)。家庭学習に対する生徒と保護者の認識に大きな差異が見られるところである。学校でも、家庭学習の在り方を早急に検討して欲しい。

### 【3】進路全般について

- 1 「進路に関する面接」の評価が非常に低い。各学年ともに生徒との面談は複数回実施しているということなので、生徒は「進路の面接指導」的なことをイメージしたのではないかと。

### 【4】生徒指導全般について

- 1 全ての項目で高評価となっている。「挨拶」では生徒自身が真剣に取り組んでいるとあるが、一部の生徒に形式のみの挨拶、相手に対する本来の挨拶となっていないか危惧もある。

### 【5】生徒の評価について

- 1 「学校の校舎や設備に満足している」について、新校舎になれば高評価となると思っていたが、そうではなかった(67ポイント)。具体的な話として、校内で文房具などの購買が欲しいとの意見もある。旧校舎に比べ新校舎が狭いという心理的要因も考えられる。構造的な問題に対し、学校側も生徒側もそれぞれ知恵を出して乗り切って欲しい。